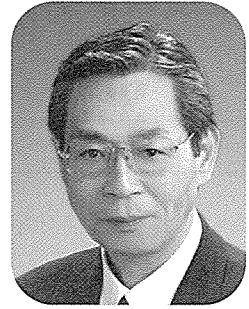


■時代の転換点に立つ



鈴木 健 一*

華々しく政権交代が実現してからすでに半年以上が過ぎたが、国内景気の先行きは不透明にして、明るい社会に向かう兆しは一向に見えてこない。建設に関わる者としては、公共事業の大幅な削減の流れが変わらず、長期にわたる厳しい環境にさらされるなか、なんとかこの閉塞感を打開する手はないかと思いをめぐらす日々である。

PC 構造物の分野においても、急激な市場縮小の中で熾烈な受注競争が行われていることは周知のとおりで、日々技術力と価格競争力に磨きをかけていかなければ生き残りさえ困難に見える状況である。だが、こういう時代の転換点においては、今日を生き抜くための地道な努力を続ける一方で、変革の時代を切り開くブレークスルーが出てこなければならぬのではないのか。

わが国の PC 技術の発展は目覚ましく、高度経済成長時代と歩を共にして、世界に誇れる PC 構造物を多数世に送り出してきた。しかし、数年前から厳しい社会環境にさらされるようになって以来、騒々しい競争時代の中で、PC 技術は少しおとなしくなってしまったのではないだろうか。個々の組織と技術者達は相当な努力をしていて、コストダウン、工期短縮、品質確保、技術開発と日々成果を積み上げていることは評価に値するが、全体としては閉塞感が漂っていることは否めない。

時代が求める社会資本を、適正とされる価格で提供することが困難であると感じられるからだろうか、高度な技術力により建設される構造物が必ずしもビジネスに結びつかないからだろうか。時代に適合するための組織の努力は、実は最適化とは程遠い振舞いである可能性も少ないとは思えないのである。

話をもとに戻して、では、時代の転換点において、硬直した枠組を壊して新しい方向性を見出す動きはどこから生まれてくるだろうか。成功体験の延長線上にある発想だけでは不十分である。経験豊富な先達としては、若い世代を引っ張りかつ鼓舞する一方で、世代間のせめぎあいのなかから革新的な発想をもって行動できる人材・グループを突出させることが急務ではないだろうか。「捨石になる」というのは時に失笑を買うこともあるが、その精神で新しい時代の始まりを待つことができれば楽しみにもなる。

また、技術的発想は往々にして常識の延長線上にあり、経験と専門性がブレークスルーを妨げることがある。PC の専門家が PC の用途を多方面の構造物に広めて市場を拡大する努力も必要であるが、こんな時代では、PC の経験がない他工種の技術者の発想を広く取り込むことも重要であると考える。そして、新技術をより迅速に実現するために、技術開発への取組について官学民の新しい関係性の構築が必要である。

一方で、技術力をビジネスに活かすマネジメントが強く求められる。厳しい競争社会の中に活力を生み出すためには、ビジネスとして面白みのある分野にしなければならない。そして、ビジネスの仕組みを変える若い力を呼び込む必要がある。それは、古き良き時代のものづくりの喜びを伝えるだけでは、実現しないのではないのか。

50 年を越える長きにわたり、PC 技術の発展に大きな役割を果たしてきた PC 技術協会は、時代の転換点において、これまでの流れとは異なる新たな役割を担わなければならないだろう。新しい時代の輝かしい幕開けを大いに期待したい。

* Kenichi SUZUKI : 本協会理事 鹿島建設(株) 執行役員 土木設計本部長